

「文化財の匠プロジェクト」の進捗について

～文化財の保存・継承のための用具・原材料の確保～

<文化財の匠プロジェクト>

- 文化財の保存・継承に欠かせない用具・原材料について、品目ごとに、その生産状況や生産者の実態把握を進める。その上で、最終消費者である修理技術者や製作者、実演家に至るまでの供給連鎖の状況も踏まえつつ、後継者養成等のための即効性のある支援措置として、生産支援の支援品目たる分野を順次拡大(5分野(令和3年度)→25分野(令和8年度))することを目指す。
- 「ふるさと文化財の森」の建造物以外への資材の供給等について検討を進める。

<持続可能な文化財の保存と活用のための方策について(第二次答申)>

- 文化財の保存・継承に不可欠な用具・原材料については、個々の需給状況に応じて、その生産や生育環境を守るための管理が重要であり、「ふるさと文化財の森」など既存の支援事業の対象の拡大も含め、支援分野の充実を図る必要がある。

「文化財の匠プロジェクト」策定後の関連する取組

◆ 美術工芸品保存修理用具・原材料管理等業務支援事業

- 美術工芸品の保存修理に必要な高品質の用具・原材料を確保し、継続的に供給するために必要な管理等に要する経費について補助を実施
(千円)

R4	R5	R6	R7	R8(案)
26,000	30,000	30,000	36,000	46,000

◆ 令和7年度までに生産支援等をおこなった分野

- 生産支援を実施した分野数は累計で38分野

R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
楮	表装裂(図案)	ノリウツギ	赤楮	補修紙	表装裂(錦)
大子那須楮	表装裂(緞子)	表装裂(繻珍)	表装裂(安楽庵金欄)	楮	伏せ綜紵糸
トロロアオイ	表装裂(綾)	表装裂(金欄)	表装裂(紋羅)	表装裂(色系入金欄)	表装建具製作用木材
表装用紐(織紐)	表装裂(文海気)	表装裂(銀欄)	表装裂 真綿手紡糸	すくも	トクサ
ムラサキ	表装裂(綸子)	表装裂 紋紙	表装裂 綜紵カタン結び	彫金鑿	甲冑修理用革
	表装裂(無地羅)	桐箱製作用桐	表装裂 堅牢度		小麦澱粉糊(沈糊)
	天然砥石(丹波青砥)		フリ		桐
	保存修理用絹布				

※各年度で支援を開始した分野を記載している

【美術工芸品保存修理用具・原材料管理等業務支援の具体例】

○ 表装裂（令和3年度より生産支援を実施）

□ 概要

- ・掛軸、卷子、屏風などで絵画・書跡などとあわせて仕立てる織物。
- ・需要量や必要とされる表装裂の種類が多いが、脆弱な素材であるだけでなく、材料・用具手配から製織まで、高度な技術の複雑な分業が必要。

□ 事業実施前の状況

- ・唯一の選定保存技術保持者が急逝したことで、調達不安定化。
- ・一般的な手織りの染織品の需要が激減するなか、分業を担う様々な技術が断絶の危機に。

□ 事業実施後の効果

- ・多種の表装裂の調達が実現し、多くの途絶していた製作技術が再開。
- ・劣化が進んでいた紋紙のデジタル化が進むなど、製作継続の基盤を整備。
- ・異業種間の連携体制が確立され、新たな団体の結成の契機に。
⇒ 選定保存技術の保存団体に認定され、組織的な調達に着手。

□ 今後の期待

- ・依然として不安視される技術者不足・断絶危機や用具材料調達の組織的解決。
- ・技術・用具・原材料の記録や科学的検証の加速（後述の保護・育成等促進事業で実施中）。

美術工芸品



表装裂を使用した掛軸



表装裂の製作の様子

○ ノリウツギ（令和4年度より生産支援を実施）

□ 概要

- ・宇陀紙^(※)の製作に不可欠な植物で、樹皮の粘液を紙漉きのネリとして用いる。
※文化財の裏側に貼り重ねて補強する裏打紙として使用される和紙。
掛軸として伝わる文化財の修理で必要不可欠な材料。

□ 事業実施前の状況

- ・個人単位での採取に支えられていたが、需要量の低下と重労働で採算にあわず、資源の枯渇・動物被害・従事者の高齢化もあり、調達危機を繰り返していた。

□ 事業実施後の効果

- ・北海道標津町が事業主体となり、組織的な採取と栽培方法の研究に着手。
- ・紙漉き体験会など普及事業も実施し、林業・観光・教育・地域交流などに展開。

□ 今後の期待

- ・栽培方法の確立による継続的な調達の基盤整備。
- ・植物学など、多領域の専門家による研究を実施中 ⇒ 採取・加工の効率化・合理化につなげ、従事者の安定的な確保を模索。

美術工芸品



採取の様子



宇陀紙の製作の様子

【美術工芸品保存修理用具・原材料管理等業務支援の具体例】

○ フノリ（令和5年度より生産支援を実施）

□ 概要

- ・海藻のフノリを加工して抽出した「フノラン」を主成分とする、装飾修理技術に不可欠な接着剤。（絵画などの表打ちに用いる事が多い）
- ・残留せず、除去の際に画面の汚れだけを取り除くという性質が装飾修理では不可欠であるが、現在、安全性が確認されている代替材料は見つかっていない。

□ 事業実施前の状況

- ・収穫に携わるスタッフの高齢化、環境変化等によって、収穫量が年々減少。加工についても一時期かつ重労働で採算にあわず、スタッフ確保が困難に。
⇒ 文化財修理に使用可能なフノリ生産者は国内1社に減少。
- ・海藻の収穫地は長崎県、加工は三重県、会社は福井県にまたがり、各地でのフノリへの認識（用途、重要性など）が希薄であった。
- ・調達の不安定化により、一時的に価格が高騰 → 却って需要が落ち込み、継続的生産が困難に。

□ 事業実施後の効果

- ・収穫地や加工地での周知活動やパンフレットの刊行、映像公開などを通じ、地元をはじめフノリに対する認知度が大幅に向上。
- ・環境変化によるフノリ減少への対応として、地元の漁協が棲息環境整備などを事業化。
- ・加工地では、三重大学の教官を通じ、人材を確保。
- ・鳥羽市立海の博物館で特別展「フノリと日本人」が開催され、文化財関係者の間でもフノリの重要性や歴史への理解が深まる。
⇒ 新たな人材確保、収穫への意欲向上。

□ 今後の期待

- ・環境整備によるフノリ原藻確保の安定化と、加工スタッフの継続的・安定的な確保。
- ・フノリ成分の抽出、保存、使用を簡便にする加工技術の開発 → 国内外での需要の増大につながる。

美術工芸品



フノリ収穫の様子



フノリ加工の様子



フノリを使用した表打ちの作業の様子



フノリを紹介する
新聞記事や
パンフレット

いた
ふ
の
り
の
手
引
き

◆「ふるさと文化財の森」の設定地数・設定材種数の推移

	R4	R5	R6	R7	総計
新規設定地数	2	4	3	4【予定】	99【予定】
新規設定材種数	2 (木材、竹)	2 (木材(キリ)、茅)	2 (茅、檜皮)	2【予定】 (茅檜皮)	7 (檜皮、木材、茅、苧殻、漆、い草、竹)

※赤字は建造物分野以外でも広く使用されている資材(分野横断型資材)



阿蘇南郷檜の森【木材(ヒノキ)】
(熊本県)R5設定地



伏見宇治川ヨシ場【茅(ヨシ)】
(京都府)R6設定地

◆関連予算事業の予算額の推移

(千円)

関連事業	R4	R5	R6	R7	R8(案)
ふるさと文化財の森システム推進事業	19,954	17,050	16,250	18,250	18,250
ふるさと文化財の森構想(檜皮採取・屋根板製作)	30,000	28,000	27,000	27,000	27,000



遠野茅場【茅】(岩手県)
管理業務支援による山焼の様子(左実施前→右実施後)

◆「ふるさと文化財の森」における資材供給の拡大

- 分野横断型資材の設定
建造物分野以外でも広く使用されている資材(分野横断型資材)の設定を進めた。

【分野横断型資材の例】

□ 竹

- ・資材の建造物分野以外での用途：和紙を漉く簀(美術工芸品・工芸技術)、竹ひご(美術工芸品)、竹箴(工芸技術)、尺八・笛などの楽器(芸能)
- ・「ふるさと文化財の森」新規設定地：栃木県 若竹の杜 若山農場(令和4年度)

□ キリ

- ・資材の建造物分野以外での用途：保存用桐箱(美術工芸品)、箏(芸能)
- ・「ふるさと文化財の森」新規設定地：福島県 西会津のキリ林(令和5年度)

□ ヨシ

- ・資材の建造物分野以外での用途：筆簞の蘆舌(芸能)
- ・「ふるさと文化財の森」新規設定地：京都府 伏見宇治川茅場(令和6年度)

- 資材の地産地消化の促進

かつては、茅などの植物性資材は地元で採取された資材を使用していた。循環型社会、SDGsなどの観点から、特に嵩張る茅を近郊で調達することは非常に重要となることから、茅場の設定地を各地で進めている。

【具体的な取組例】

- ・島嶼部における茅の自給率向上を目指し、ふるさと文化財の森を設定。
例：隠岐の島町茅場(島根県、令和3年度)
佐渡島茅場(新潟県、令和4年度)
- ・地域で産出した素材の活用を促進するため、修理現場に働きかけを実施。
例：重要文化財千葉家住宅(岩手県) ← 遠野茅場(岩手県)
重要文化財尾崎家住宅(岡山県) ← 真庭市蒜山茅場(岡山県)

見えてきた課題と検討の方向性(案)

- ✓ 美術工芸品の保存修理に必要な用具・原材料については積極的な生産支援を実施(美術工芸品修理用具・原材料管理等業務支援事業)。事業を通じて生産者と使用者等のつながりが生まれ、用具・原材料の供給ストップを阻止できた例や、新たな生産者が生まれた例も。
- ✓ 建造物修理に必要な原材料(特に檜皮、茅)については、「ふるさと文化財の森」の設定をすすめ、一定の供給を確保している。
- ✓ 無形文化財については、重要無形文化財保持団体や選定保存技術(用具製作・原材料生産技術)保持団体等に対して継続的に支援を実施。例えば… 使い手側からの用具・原材料の確保や使い手と作り手との理解促進、用具・原材料生産にかかわる後継者養成 等
- ✓ 一方で、生産支援を実施できている用具・原材料は全体からすると限定的。
- ✓ 高品質かつ多種の用具・原材料が求められる一方、用具・原材料としての需要は縮小する傾向にある。価格を大きくあげることも難しく、生業として成り立たせるのは困難。
- ✓ 用具・原材料の使用者(修理技術者や無形文化財保持者・保持団体等)に用具・原材料の生産に関する十分な情報が届いていない。
＝需要と供給のマッチングができていない。分野横断的な情報共有ができていない。



- 美術工芸品や建造物については、継続的な支援と新しい分野への支援の拡大を行っていくことが重要。
また、これまで生産支援を行ってこなかった無形文化財の保存に必要な用具・原材料の生産支援を実施していく。
- 既に生産支援等を実施したものについては、「生業」として生産を継続していけるよう、多面的な支援策を検討することが必要。
特に、生産の中長期的安定を展望するためには、若手の従事者の養成・参入が望まれる。
例えば… 一定の需要の維持・確保、適正価格の確保や見通し、異分野を含めた新規ニーズの発掘への支援 等
- 分野横断的に用具・原材料の生産状況を共有し、新たな需要の拡大や、需要のとりまとめにつなげることが必要。
例えば… 選定保存技術保持団体の情報交換会の継続・発展(具体的な事業着手など)
- 用具・原材料の使用者と生産者をきめ細かにつなぐ支援が必要。(文化庁がきっかけをつくり、その後は自走化できるかたちが望ましい。)

<文化財の匠プロジェクト>

- 用具・原材料に関する需給調査や調査研究を実施し、調査で得られた知見の集約・情報発信を定期的・継続的に実施する。これにより、生産見通しや代替材料の必要性などの課題を把握し、分野横断的な生産集約など、需給安定化に向けた取組につなげる。
- 文化財の保存・継承に不可欠で国内生産が危機的な状況にある原材料について、順次リスト化・公表し、管理等業務支援などの取組を通じて安定供給につなげる。また、伝統的な原材料の質を科学的に検証する。

<持続可能な文化財の保存と活用のための方策について(第二次答申)>

- 用具・原材料に関する需給調査や原材料に関する調査研究、調査で得られた知見の集約・情報発信を定期的・継続的に実施することが必要。生産見通しや代替材料の必要性などの課題を把握し、分野横断的な生産集約など、需給安定化に向けた取組につなげる。
- 文化財の保存・継承に不可欠で、国内生産が危機的な状況にあるなど安定供給を図るべき原材料については、国がリスト化し、例えば個々の原材料の特殊性を踏まえた行政等による買上げ、備蓄等の必要性も含め、長期的な安定供給のための仕組みを検討する必要がある。その際、伝統的な原材料の必要性を、質の観点から科学的に検証することが重要。
- リスト化に当たっては、生産地等の特性にも留意しながら順次リスト化を進めることが考えられる。これらのリストは、国、地方公共団体、生産者、技術者等の文化財関係者が共通認識の下、原材料の安定確保に向けた取組を進められるよう、親しみやすい通称も付して、HP上での分かりやすい発信等を行うなど、まずは政策の見える化を図ることから始める必要がある。

「文化財の匠プロジェクト」策定後の関連する取組

◆ 美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業(美術工芸品)

- 美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等の促進をはかるための支援体制構築、調査研究、人材育成、情報発信を行う事業として、令和4年度から開始。
- 美術工芸品の管理と将来の修理に必要不可欠な修理記録の収集、アーカイブ化の促進、途絶の危機を迎えた用具・原材料の製作・生産技術の記録の促進、用具・原材料の素材の特性を科学的調査により材料の重要性の周知や代替品の研究を促進する。

映像記録の拡充

用具・原材料調達を支える作業は動作も伴い、文章や写真のみでは理解も容易でない。
⇒ 記録映像を技術伝承や研究・普及などに活用

□ 撮影の実施

- 用具・原材料(重要性や途絶危機をふまえて決定)に関する作業を撮影
- 技術・用具・原材料の記録として、修理作業を撮影
- 他事業の一環として、稀少な作業の記録も実現
(例) 管理等業務支援事業での支援内容を記録・公開

□ 映像の公開

- Youtubeで公開し、[東京文化財研究所のHP](#)に集約
- 解説・普及動画も整備

科学調査の実施

伝統的な用具・原材料、修理技術に対し科学調査を実施
⇒ 物性の把握を通じてその継承を図る。

□ 和紙原料(コウゾ・ネリ)

- 美洒紙に不可欠なアカソの栽培技術や細胞学上の研究、品質低下の一因である赤筋発生の原因の研究
- ネリ(トロロアオイ・ノリウツギ)の物性の研究

□ 小麦デンプン糊

- 生沈と乾燥沈の物性の比較研究

□ 椿灰

- 椿灰中の鉄成分やカリウムイオン量の分析

□ 漆工品修理と科学調査

- 漆の物性の判別方法の調査研究

修理記録のアーカイブ化 データベース構築

明治30年以降に実施された修理記録が未集約
⇒ アーカイブ化、データベースの構築を図る。
(データベースは[東京文化財研究所のHP](#)で公開中)

□ 対象

- 過去の修理記録の悉皆的収集と整理
- 修理関係刊行物(報告書、図録など)
- 最初に修理関係刊行物をデータベースで公開

□ 公開項目/対象修理年代

- 文化財名、所有者、修理期間、掲載刊行物、修理概要の有無、修理施工者などを公開
- 1897年～現代の修理を対象とする

□ 今後の課題

- 非刊行物(原文書)の収集、整理、公開

◆ 需給調査(建造物)

- 建造物修理に必要な用具・原材料について、需給状況の調査を実施。

【具体的な取組例】

○ 苧殻に関する実態調査（令和6年度～）

□ 概要

苧殻は、麻（主に大麻）の茎から繊維を取り除いた後に残る芯の部分を乾燥させた植物性資材で、茅葺屋根の屋根葺材として使用されている。ふるさと文化財の森では鹿沼（栃木県）の1箇所を設定しているが、現在採取されている苧殻は径が太いことから、民家の軒付に使用される極小径の苧殻としては使用できず、入手困難になっているとの相談が、各地の修理現場より寄せられる。
⇒ 選定保存技術「茅採取」の保存団体である日本茅葺き文化協会において、令和6～7年度の補助事業（原材料確保）として苧殻生産の実態調査を実施。

□ 調査内容と今後の期待

鹿沼以外での苧殻生産の現況と、極小径の苧殻の生産・供給体制の構築について調査。調査結果を基に、生産地及び使用者と供給体制の構築を検討する。

民家（東北地方）の軒付に使用される径の細い苧殻
現在は入手できないため古材を再利用している



建造物

◆ 文化財用具・原材料等代替品実用化研究事業(芸能)

- 将来的に入手や生産が至難となることが予測される用具・原材料について、代替品の実用化に向けての研究を行う事業として、令和3年度より開始。

【具体的な取組例】

○ 三味線撥などに使用する象牙(令和3年度～令和6年度)

□ 概要

三味線の撥に使用する象牙については、ワシントン条約による国際商取引が禁止されていることから、将来的に入手ができなくなる。
⇒ 代替品としての新素材を開発し、実演家などの意見を聞きながら、演奏に使用できる質に到達しているかの調査を実施。

□ 事業の成果と今後の期待

長唄用の撥については、新素材の化学的な組成が確定した。実用化に向けたさらなる改良と、地歌をはじめとする他の種類の撥への応用が期待される。

○ 三味線の胴皮(令和7年度～)

□ 概要

三味線の胴皮に用いられる動物皮（猫皮・犬皮など）については、輸入に依存しているため供給が不安定。
⇒ 実演家、素材・楽器製作者、研究者等と連携し、動物皮に代替し得る新素材の開発を目指す。

□ 今後の期待

新素材の開発によって三味線の胴皮の選択肢（種類）を増やすことが、皮材の安定的な供給につながる。



象牙代替品を用いた
三味線撥の試奏の様子

無形(芸能)

◆文化財関連用具・原材料調査(工芸技術)

- 関係機関の相互協力により、文化財の保存・継承に用いられる用具・原材料等に関する実態調査を実施する事業として、令和5年度から開始。
- 事務局となる団体が、重要無形文化財の保持団体や選定保存技術の保存団体が実施する用具・原材料等に関する諸調査を支援するとともに、事業の支援を通じて多くの団体が共通して用いることができる手法や事例を収集することを図る。

- 事務局 ⇒ 事業支援を通じて、円滑な事業実施のために必要な作業・活動について調査、分析を行い、各団体等の効率的かつ効果的な調査研究の実施に向けた事例を収集。
- 保持団体等 ⇒ 団体自らが抱える課題への取り組みに対する一般的な事務作業(協力機関への申請や依頼文書作成、視察・イベント等の実施に関わる各種手配等)について、外部の事務支援事業者に相談し、支援を受けながら進めることができる(事務局機能の強化)。

	R5	R6	R7	計
執行額(事業全体)	6,739,184	9,981,440	11,770,000	28,490,624
(再委託分)				
団体数	4	6	7	17
執行額	1609395	4,567,942	5,831,300	12008637

【採択実績】

	R5	R6	R7
事務局(委託先)	近畿日本ツーリスト株式会社	近畿日本ツーリスト株式会社	株式会社文化科学研究所
保持団体、保存団体等(再委託先)	(一財)日本民族工芸技術保存協会 本場結城紬技術保持会 全国手漉和紙用具製作技術保存会 宮古苧麻績み保存会	(一財)日本民族工芸技術保存協会 宮古苧麻績み保存会 金沢金箔伝統技術保存会 宮古上布保持団体 阿波藍製造技術保存会 琉球藍製造技術保存会	(一財)日本民族工芸技術保存協会 本場結城紬技術保持会 宮古苧麻績み保存会 宮古上布保持団体 琉球藍製造技術保存会 伊勢型紙技術保存会 昭和村からむし生産技術保存協会

調査対象一覧
紫根(原材料)
苧麻栽培(原材料)
葉藍(原材料)
真綿(原材料)
苧麻糸(原材料)
手漉和紙、柿渋(原材料)
ハネ(用具)
関係者間交流(ネットワーク化)

【具体的な取組例】

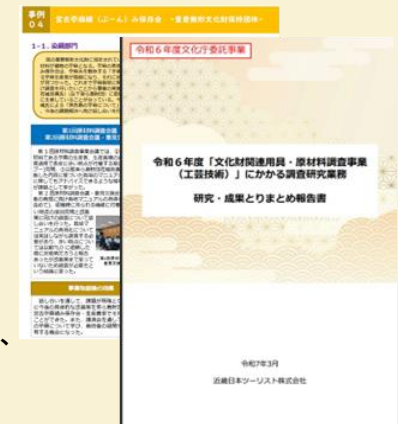
○阿波藍製造技術保存会(令和6年度)の取組

- 概要：藍の発酵の際の「切り返し」の作業に用いる、伝統的な道具の「ハネ」の再現と、その原材料の「カゴノキ」の調査。
- 事業実施前の状況：サクラやケヤキで代替。ハネの板が厚く、重く扱いにくいいため、作業を行う際の技術者の負担大。
- 事業実施後の効果：カゴノキの確保、徳島県内の木工家による試作品も完成。
- 今後の期待：用具を製作の技術者との新たな繋がり。改善点を共有しながら製作を継続。

○金沢金箔伝統技術保存会(令和6年度)、昭和村からむし生産技術保存協会(令和7年度)の取組

- 概要：保存団体の自主的な分野横断型情報交換会(全選定保存技術保存団体(R7/40団体)に声掛けし、賛同団体(R7/23団体(51名))が対面参加)
- 事業実施前の状況：同じ保存団体同士でも、道具や原材料、後継者等の共通課題について、情報交換する場や機会がなかった。
- 事業実施後の効果：課題となっている道具や原材料をお互いに共有することで、他団体から供給を斡旋してもらった事例(ヒノキ極板、メダケ、灰汁、稲藁など)が生まれている。
- 今後の期待：情報交換会で見つかった共通する原材料・用具の課題について、複数団体が、共同で調査・入手を行うなどの新たな取り組みへの発展が見込まれる。

無形(工芸技術)



見えてきた課題と検討の方向性(案)

- ✓ 分野ごとでの用具・原材料に関する調査を踏まえ、それぞれの課題を把握して生産支援等の取組につなげており、一定の成果はでている。
- ✓ 一方で、文化財保存に必要となる用具・原材料は非常に多様であり、供給地・生産者も多岐に亘るため、網羅的な調査・把握は困難。分野によって必要とされる用具・原材料の質や量が異なることもあり、分野横断的な情報共有・生産集約には至っていない。
- ✓ 生産者・使用者ともに、自主的に、用具・原材料に関する自らの課題を見つけて対策を講じることはなかなか難しく、外部の専門家の併走が必要。
- ✓ 文化財の保存・継承に不可欠であるが国内での生産が危機的な状況にある用具・原材料について、文化庁内部で需給状況の整理を実施した。
- ✓ 広く一般に公表するに向けては、市場への影響や必要となる質・量の分野間での違いへの考慮が必要。



- これまで実施してきた調査研究については継続的に実施することが必要。調査結果をより効果的・効率的に活用できるよう、データベース化や公表を行うとともに、分野横断的な共有をすすめる。
- 継続的な事業実施と、未着手の分野の新規事業化を行うためには、文化庁も含めた行政の担当職員が主体的に関与しながら、関係者(公的機関、研究機関)を案件ごとにきめ細かに繋いでいくことが必要。
- 国内生産が危機的な状況にある用具・原材料については、これまでの整理を踏まえたうえで、分野ごと・産地ごとなど、より細分化した整理を実施していくことが望ましい。
- そのうえで、それぞれの文化財としての価値を維持しながらも生産を集約することができないか等、持続可能なかたちで文化財を保存していくための方策を検討する必要がある。

<文化財の匠プロジェクト>

- ・ 国指定文化財建造物において、修理に伝統的な工程・原材料で製作された和紙や畳等の活用を推奨し、積極的な情報発信を行うことで需要の創出を図る。
- ・ 伝統的な技術によって製作された楽器や衣裳等の購入・修理需要創出に資するよう、重要無形文化財の保持者や保持者の団体への支援等を活用することを促す。

<持続可能な文化財の保存と活用のための方策について(第二次答申)>

- ・ 国、用具・原材料の使用者側に着目した需要の創出は、長期的な視点で安定的な供給を促すインセンティブとなりやすく、持続可能な取組として有効である。需要の創出方策の一つとして、国指定文化財建造物の修理に伝統的な工程・原材料で製作された和紙や畳等の活用を推奨することが考えられる。国は、推奨される原材料の仕様やメリットについて所有者の理解を得られるよう、積極的な情報発信を行うとともに、適切な品質を実現するための取組や所有者の費用負担増への配慮について検討する必要がある。
- ・ 無形文化財の芸能については、伝統的な技術によって製作された楽器や衣裳等の購入・修理に対する需要に対応するため、重要無形文化財の保持者や保持者の団体への支援等を活用することも有効である。また、学校で使われている邦楽器についても、継続的な修理を含め、その充実を図ることが重要である。

「文化財の匠プロジェクト」策定後の関連する取組

◆ 国指定文化財建造物修理における、国産の畳の活用の推進

- ・ 国庫補助事業として重要文化財建造物の保存修理を実施する場合、畳の表替えには、**国産の「い」の使用を推進。**
- ・ トレーサビリティのある資材を用い、確実な生産地の支援。

【具体的な取組例】

建造物



国宝建造物における保存修理事業での国産畳の使用(東大寺提供)

◆ 重要無形文化財の保持者や保持団体に対する支援

- ・ 重要無形文化財等伝承事業において、重要無形文化財の保持者や保持団体等が行う伝承者養成に用いる用具・原材料等の購入・修理について、その経費の補助を実施。

【具体的な取組例】

無形(芸能)

- 重要無形文化財「義太夫節」、「清元節」
研修等に用いる三味線の修繕や、糸などの消耗品の購入に対して補助を実施
- 重要無形文化財「組踊」、「日本舞踊」
研修等に用いる衣裳や道具(ex.刀、かつら)の購入に対して補助を実施

無形(工芸技術)

研修等で用いる用具・原材料の購入等に対して補助を実施

- 重要無形文化財「結城紬」：真綿 等
- 重要無形文化財「伊勢型紙」：和紙、柿渋、鋼 等
- 重要無形文化財「久留米餅」：菜、粗苧 等
- 重要無形文化財「宮古上布」：苧麻、琉球藍 等
- 重要無形文化財「輪島塗」：漆、金粉、篦木 等
- 重要無形文化財「本美濃紙」：太子那須楮、刷毛、桁 等
- 重要無形文化財「越前鳥の子紙」：雁皮、トロロアオイ、簀桁、干板 等
- 重要無形文化財「石州半紙」：石州楮、トロロアオイ、簀桁 等

◆「日本の技フェア」の開催

文化財の保存技術の大切さや伝承者の養成、文化財の修理や用具・原材料などに関する現状をより多くの方々に理解していただくとともに、未来の伝承者・理解者の養成等に資することを目的に、毎年全国各地で「日本の技フェア」を開催。

第1回資料
再掲

〈主な内容〉

- ①展示 … 技の解説や保存団体の活動を紹介するパネルや原材料・道具等を展示。
- ②実演 … 先人から受け継がれてきた知恵と熟練の技を実演。
- ③体験 … 技術者から教わりながら「匠の技」を体験。



令和7年度開催の様子

【各分野における情報発信の例】

建造物

◆文化財建造物の修理に関する展覧会への協力

- ・「植物×匠」(令和7年7月～9月:国立科学博物館、令和7年10月～12月:竹中大工道具館)
- 文化財建造物に使用される植物性資材について、研究者、職人、生産者などの視点から解説。
実物や模型、道具、映像を交えて紹介。
科博・保存団体と共同し、専門的な知見をわかりやすく展示。



展覧会「植物×匠」の様子

◆文化財修理用資材等に関する普及啓発活動

- ・ふるさと文化財の森システム推進事業において、普及啓発事業を委託。

【具体的な取組例(令和6年度事例を掲載)】



(NPO法人)文化遺産保存ネットワーク河内長野
檜皮葺体験の様子



(一社)日本茅葺き文化協会
茅刈り体験研修



日本うるし播き技術保存会
漆播きの体験

【普及啓発事業支援実績】

	R4	R5	R6	R7
支援件数 (予算)	5 (11,259千円)	4 (9,641千円)	5 (8,247千円)	6 (10,224千円)
支援資材 内訳	檜皮1 茅3、漆1	檜皮1 茅2、漆1	檜皮1 茅2、漆2	檜皮1 茅3、漆2

【各分野における情報発信の例】

美術工芸品

- 文化財修理に用いられる用具・原材料を紹介する映像を制作し、インターネット等で公開『月刊文化財』をはじめ刊行物でも積極的に発信。
- 日本国宝展(令和7年4月～6月に大阪市立美術館で開催、来場者278,865人)や新指定国宝・重要文化財展(令和7年4月～5月に京都文化博物館で開催、来場者6,858人)において、修理等に必要不可欠な用具・原材料について解説・展示。
- メディアからの取材依頼や美術館・博物館・地方自治体などからの講演依頼が増加しており、積極的に対応。

第1回資料
再掲



文化財修理やその用具・原材料を紹介する動画
(東京文化財研究所HP)



「日本国宝展」における展示の様子



修理の用具・原材料について
紹介する新聞記事

無形(工芸技術)

- 選定保存技術保存団体や重要無形文化財保持団体が、それぞれの国庫補助事業等において普及啓発事業に取り組む
⇒個別の技術の認知度向上

第1回資料
再掲

〇ワークショップ

技術名称:木炭製造
保存団体:合同会社伝統工芸木炭生産技術保存会
後継者確保や社会的認知度の向上を目的とし、大学生や一般を対象とした、黒炭、白炭の製炭等実技体験会を実施。



白炭製炭等実技体験会の様子

技術名称:琉球藍製造
保存団体:琉球藍製造技術保存会
研修で製造した琉球藍を用いて、海洋博公園にて、一般向けの藍染体験会を開催。県内外から多数の参加者があり、琉球藍の周知に貢献。
※令和7年度の参加者 431人



藍染体験会の様子

〇シンポジウム

技術名称:縁付金箔製造
保存団体:金沢金箔伝統技術保存会
金箔に関する一般公開のシンポジウムを開催



シンポジウムの様子

見えてきた課題と検討の方向性(案)

- ✓ 国指定文化財の修理や重要無形文化財の保持者・保持団体等が実施する伝承者養成活動のなかで、伝統的な工程・原材料で製作された用具・原材料を使う事例もあり、一定の需要につながっている。
- ✓ また、「日本の技フェア」を通して、これまで選定した保存技術団体が一同に会して文化財の保存技術の大切さを広く発信するとともに、各分野においても選定保存技術とセットで、用具・原材料に関する対外発信の機会を積極的に創出してきた。
例えば… HPにおける用具・原材料や文化財修理技術に関する情報発信、講演会や展覧会の開催、パンフレット作成 等
- ✓ 国指定文化財の修理や重要無形文化財の保持者・保持団体等が実施する伝承者養成活動で用いられる用具・原材料の需要は現状小さいものが多く、用具・原材料の生産を自律化・自走化させていくことが必要。



- 国指定文化財の修理や重要無形文化財の保持者・保持団体等が実施する伝承者養成活動に対しては、引き続き支援を実施。
- これまで文化庁が支援してきた分野に限らず、幅広く使用者となりえる層のニーズを把握し、用具・原材料の安定的な需要創出に向けた方策を検討する必要がある。
例えば… 需要創出や担い手育成のため、地方指定文化財や文化施設に所蔵・寄託される文化財等での需要の創出を促進
国指定建造物の修理だけではなく、地方指定建造物の修理や住宅などを含めた伝統的な日本家屋等での需要の創出を促進
和紙の機能性に着目し、修理材料や保護材料(包紙)としての利用を推進する 等
- 各分野における地道な対外的発信を引き続き実施したうえで、国民が普段接することのない文化財の保存技術を修理技術者等による実演や体験を通して周知する機会を確保するなど、国民が文化財保護に親しみを持つ機会をより充実させる必要がある。
例えば…文化財とその保存に不可欠な保存技術、用具・原材料に関する情報の発信拠点(オンライン・オフライン問わず)の構築・充実
修理した文化財や無形文化財の成果等を展示・公開する際に、関連する保存技術・用具・原材料についてもあわせて発信 等
- 国内外の文化財関係者や用具・原材料の生産者に対しても、積極的に文化財保存技術や用具・原材料について積極的に情報発信を行い、新たな人材確保や活動継続への意欲向上につなげる。

<文化財の匠プロジェクト>

- 地域特産作物としての原材料の生産体制の強化、国有林野事業と連携した伝統木造建造物の資材の確保・育成(農林水産省)、刑事施設との連携による原材料生産(法務省)、「地域おこし協力隊」の枠組を活用した後継者確保(総務省)など、関係省庁の施策と連携した取組を検討・推進する。

<持続可能な文化財の保存と活用のための方策について(第二次答申)>

- 文化財に関する原材料も支援対象に含まれる関係省庁の施策について、積極的に情報収集・発信を行い、活用を図ることが有効である。

「文化財の匠プロジェクト」策定後の関連する取組

◆ 国有地の「ふるさと文化財の森」への設定(国土交通省)

「ふるさと文化財の森システム推進事業」において、国有地(宇治川河川敷:国交省淀川河川事務所)の設定を実現

- 市街地にあるため、萱葺職人が行う茅の生育に必要となる野焼きに対して周辺住民等の理解を得る必要があった。
⇒ 当該国有地を管理する河川事務所の協力を得て、資材の重要性や自然環境への貢献などをアピールするため、令和6年度に宇治川河川敷で採取できる茅(ヨシ、オギ、アヤメ)を対象に、ふるさと文化財の森の設定を行った。

◆ 「地域おこし協力隊」の枠組を活用した人材育成(総務省)

「地域おこし協力隊推進要綱」における地域協力活動の例として、「文化財の保存・活用」を明記(令和5年4月4日一部改正)

- 岩手県二戸市において、地域おこし協力隊員として漆掻き等に携わる人材(「うるしびと」と命名)を募集し、地元での人材育成・定着を実現している。漆掻き技術をはじめとする漆に関わる情報発信も積極的に実施。

◆ 被災した重要無形文化財「輪島塗」等への支援(経済産業省)

- 令和6年能登半島地震で被災した重要無形文化財「輪島塗」等の無形文化財への支援を検討するために、伝統的工艺品を所管する経済産業省と連携し、輪島塗PTを立ち上げた。
- 石川県主導の「輪島塗の若手人材の養成施設の整備」に向けた取り組みに、経済産業省とともに参加。

◆ 地域特産作物としての地元自治体等の協力

- 島根県浜田市において、地域の技術である石州半紙・石州和紙に用いる石州楮の生産を支援。
⇒ 石州半紙技術者会が取り組む楮の事業と相乗効果を発揮。10年で生産量が大幅に増加。
- (公財)日本特産農産物協会の実施する特産農産物セミナーにおいて、「染料作物」をテーマに、工芸技術やそれに使用する原材料を紹介。

今後の方向性(案)

- 引き続き、関係府省庁や地方自治体等とも連携し、用具・原材料の生産支援の拡大や需要創出を図る。